

八十島義之助文庫の概要* YASOJIMA, Yoshinosuke Library

五老海 正和** 伊東 孝***

By Masakazu Isami, Takashi Itoh

概 要

この小論は八十島義之助研究ではない。日本大学理工学部寄贈された博士の貴重な史料の現状と今後の作業を紹介するものである。

昨年(2004年)の10月に開設したばかりのCST Museum(日本大学理工学部科学技術史料センター、以下、センター)は、学部内外に所在する実物や模型などの「もの」の保存・収集・展示と、文献・史料などのアーカイブズ(文書館)という二つの機能を有する点に大きな特徴がある。目的とするところは、先輩諸氏が残された遺産を収集・継承するとともに、本学部の歴史と文化を目に見える形で継承・発展させることにある。あわせて理工系学芸員等の養成をおこない、社会との連携強化を図る狙いがある。アーカイブズは本学部に関係の深い6人の文庫から成っており、以下に紹介する「八十島義之助文庫」はそのひとつである。

1. 八十島義之助博士(1919. 8 - 1998. 5)

—その時代、その仕事の概要—

八十島義之助博士(以下、先生。写真-1)は大正8(1919)年8月、東京で生まれ、昭和16(1941)年12月に東京帝国大学を卒業。翌年1月には東京大学の非常勤講師に採用されたが、すぐに陸軍兵器学校幹部候補生として入隊。戦後大学に戻られ昭和22(1947)年に助教授、昭和30(1955)年に工学博士(論文名「敷設軌道の力学的特性に関する研究」東京大学、4月21日)、同年、鉄道工学・交通計画講座担当の教授に就任された。

以降、東京大学定年退官までの38年間にわたって土木計画学をはじめ多くの学問領域の基礎を築かれた。退官後名誉教授。この間、昭和45(1970)年10月から昭和56(1981)年3月まで日本大学大学院土木工学専攻・交通工学専攻の兼任教授として御指導いただいた。また昭和57(1983)年には埼玉大学工学部長、昭和61(1986)年、帝京技術科学大学(現、帝京平成大学)学長を勤められ、平成10(1998)年5月、虚血性心不全のため逝去された。享年78歳。

先生の大学復帰当時のわが国は、戦争で疲弊した国土にさらに数年にわたって襲来した台風や地震などのため、壊滅的な状況にあった。このような状況で再スタートしたわが国は、40有余年にして世界のGDPの10%強を超え

* Key Words: 八十島義之助、公共政策史、土木史、

CST Museum、アーカイブズ

** 正会員 日本大学理工学部理工学研究所
上席客員研究員

(〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1)

*** 正会員 工博 日本大学理工学部社会交通工学科

る経済大国に発展し、今日も世界有数の安全・安心・安定した社会を形成している。

これは、外地から帰国した優秀な人材や農山漁村からの豊富な労働人口の存在と、これら大量な人口移動による急激な都市化に応じた社会基盤を整備できたことによる。

先生は、大学での鉄道工学をはじめ交通計画・景観工学・国土計画などの研究を世に問い、本州四国連絡橋上で世界初の高速列車走行を実現し、地下鉄など軌道系交通機関の線路網設計や道路計画、そして総合的な都市交通



写真-1 八十島先生60歳ごろの写真

[先生自薦、和歌子夫人もお気に入りの写真である。]

計画策定などに大きく貢献された。

先生の土木技術者としての理念は、大学での教育・研究を実社会の設計・計画に生かすという学理と実践の賢明な関係に発展させることにあった。このため積極的に政府や地方自治体、あるいは公益団体の審議会や委員会の委員等に就任された。その数例をあげると「首都圏整備審議会専門委員（1963）」、「東京都総合開発審議会委員（1965）」、「学術奨励審議会委員（1967）」、「運輸政策審議会委員（1970）」、「科学技術会議委員（1975）」、「海洋開発審議会専門委員（1978）」、「土木学会第69代会長（1981）」、「日本学術会議副会長（1982）」、「国土審議会会長（1988）」、「首都機能移転問題に関する懇談会座長（1990）」などがある。また1987年1月には講書始の儀で、土木界ではじめての天皇進講を行われた。

1985年11月：紫綬褒章、1991年11月：勲二等旭日重光章。1998年5月：従三位銀杯三号。その他国、地方、各種団体等からの褒章・感謝状など多数。

2. 史料の日本大学理工学部搬入に至る経過

先生逝去の直後から、先生が主宰されていた計画・交通研究会（当時：中村英夫会長）に先生が残された膨大な史料の整理・保存および活用をどのように進めていくかという課題が残された。計画・交通研究会理事会では、宇都宮大学教授の古池弘隆理事に遺品の整理担当を任命。古池教授がこれに基づいて平成11年2月から約半年をかけて自宅はじめ都内数箇所およびつくば研究学園都市等に散在していた史料を、宇都宮大学名義により無償で借上げた黒磯市（現那須塩原市）所有の「旧東那須保育園」に集積・保管・管理された。

平成11年4月から12月までの8ヶ月間にわたって日本道路公団試験研究所の協力のもとでこれら史料の整理が行われ、その詳細が『高速道路計画技術資料作成検討業務報告書、平成13年3月』（非公開史料）としてまとめられた。この段階では、前述の古池教授のほか鈴木忠義東京工業大学名誉教授（現、財団法人道路緑化保全協会会長）が委員として指導され、概略調査、史料形態別仕分け、整理方針の詳細について協議、これに沿った作業が行われた結果、20,000件に及ぶ膨大な史料の第1段階作業が完了し、前述の報告書にまとめられた。

一方、黒磯市では「旧東那須保育園」跡地の再利用計画がまとまり、平成16年度末ころまでの立ち退きについての申出があった。これを受けた計画・交通研究会理事会では、日本大学理工学部科学技術史料センターの設立を機に全史料の移管を決定した。

日本大学理工学部ではこの決定を受け、平成16年12月16日に八十島和歌子婦人を囲んで、日本大学関係者（小嶋理工学部長、高田次長ほか3名）と計画・交通研究会関係者（黒川会長はじめ前述の鈴木、古池両氏ほか3名）の出席による「故八十島義之助博士史料の移管に伴う相談会」を開催し、史料の現状と残された課題を相談した結果、全史料及び『高速道路計画技術資料作成検討業務報告

書』の今後の利用・活用及び公開の方法などについて日本大学理工学部科学技術史料センターへの一任を確認した。

史料は17年1月27日に古池宇都宮大学教授、計画・交通研究会事務局の橋本昭夫氏および筆者らの立会いの下でダンボール箱：737箱＋32箱、プラスチックケース：478個の史料を10t積みトラック4台により積出し、翌28日に日本大学理工学部船橋校舎2号館への搬入を完了した。

3. 史料の概要

日本大学理工学部船橋校舎2号館3階（231A、231B、232A、232Bの4部屋）に搬入された史料の形態とその概要を前述の『高速道路計画技術史料作成検討業務報告書』から以下に紹介する。

3. 1 資料の形態

「旧東那須保育園」に集積された当時の史料は、次のようにさまざまな形態のものが混在していた。

- 1) 製本された書籍・報告書等
- 2) 紐とじされた資料
- 3) 外国語で書かれた資料
- 4) 収納ボックスに収められた資料（背表紙にキーワードになる委員会・審議会名等が記載されている史料）
- 5) 紐とじ茶封筒に収められた資料（袋にキーワードになる委員会・審議会名等が記載されている）
- 6) 議事録・名簿の製本されていないもので、その史料だけでは分類不可能な史料（活動履歴）

また上記4)及び5)は次のような形態で、さまざまな史料がひとつのダンボール箱に入れられ、多種多用なものが混在していた。

- ① 1枚～数枚のホッチキス止めの資料
- ② カタログ・パンフレット、地図、新聞、写真
- ③ 委員会・審議会の会議資料
- ④ 委員会・審議会の報告書

3. 2 史料整理の方針

史料整理の方針として次の取り決めが行われた。

- 1) 資料整理リストの作成や検索方法については図書館等の専門機関を参考にする。
- 2) 紐とじ袋内の報文のみが入っている場合は、袋から出して「報告書」として分類する。
- 3) 紐とじ袋内に報文、カタログ、パンフレット等が混在している場合は、各々抜き取らない。
- 4) 資料の中には複数の分野にまたがるものがあり、これらの分類手法については「総記」という項目をもって対応する。
- 5) 書籍外資料については、可能な範囲でそのタイトルと発行年月をリスト化し、整理する。なお内容の判読については、今後の専門家に委ねる。

3. 3 史料の仕分けと数量および保管ケース数

3.2の基本方針にそって、大量に存在する書籍、報告

書、雑誌等をリスト化し、その保管先を明確にすることを最重要かつ基本要件として、形態別・工種別に分類・整理されている。

整理された史料、数量および保管ケースを表－1に示す。

書籍類の合計は14,825件、書籍外の合計は4,430件、プラスチックやダンボールの箱にすると、それぞれ669箱、546箱、あわせて1,215箱になる。占有面積は、ダンボール箱を5段積みにして、人の通路を確保すると、3.3m×8.8mの研究室4部屋分になった。

3. 4 史料の概要と今後の作業

表－2は、未整理分の史料30箱分（史料数α）を表－1に加え、人物的なアーカイブズとして重要な「活動履歴」を区分出しして整理したものである。あわせて整理状況と今後必要とする作業をまとめている。

史料の整理状況は、書籍類についてはリストは作成されているが、リストと保管ケース内史料との照合は未完である。活動履歴については、全体的に未整理である。

現在、史料の整理中なので、発表当日には、もう少し具体的な進捗状況を説明できると思える。あわせて貴重な史料なども紹介したい。

4. 公開までに検討すべき課題

以下、私案であるが、思いつくままに列挙する。

(1) 公開・非公開（要審査）史料の分類と

保管の場所・方法・設備

書籍、雑誌、報告書、スクラップ、カタログ・パンフレット、地図、新聞などは原則公開とする。

書籍外の活動履歴については現時点での公開は困難である。部外秘議事録はじめ先生の私事やプライバシー等に関わる史料が混在している。今後、公開・非公開の分類を厳密に行う。また非公開史料の研究利用に当っては事前申込方法（審査制度）等の検討が必要。史料の保管場所、検索方法、設備等とともに検討する。

(2) 利用のルール作成

公開史料の閲覧・複写の方法・場所、利用日・時間、コピー料金の設定等。また非公開史料の利用方法事前申込と運営委員会（仮称）による審査方法なども検討する。

(3) アーカイブ運営委員会（仮称）の設置

非公開史料の利用審査を行うほか、アーカイブズ史料の転載・出版物掲載など、著作権に伴う諸種のほか、運営に関わる事項を協議する。

(4) 公開までのスケジュール

検討中。

表－1 八十島義之助東大名誉教授蔵書

工 種	資料形態	合計	一般	政治経済	道路	鉄道	港湾	空港	開発	交通・流通	資源・環境・公害	防災	建築	情報通信	総合交通・施設等	総記	その他	備考
書籍類	①書籍	2,729件 (60.3%)	2,729 (60.3%)															ケース
	②一般教養	4,526件	893 (19.7%)	37 (0.8%)	37 (0.8%)	210 (4.6%)	16 (0.4%)	24 (0.5%)	178 (3.9%)	143 (3.2%)	5 (0.1%)	13 (0.3%)	8 (0.2%)	61 (1.4%)	6 (0.1%)			箱数
	③専門書		166 (3.7%)															7.53772
	④文学																	7.53772
書籍類	⑤報告書	7,463件 (100.0%)	104 (1.4%)	182 (2.4%)	555 (7.4%)	1,196 (16.0%)	782 (10.5%)	496 (6.7%)	2,172 (29.1%)	1,181 (15.8%)	271 (3.6%)	208 (2.8%)	65 (0.9%)	6 (0.1%)	23 (0.3%)	54 (0.7%)	64 (0.9%)	245箱
	⑥書籍+②報告書	11,989件 (100.0%)	3,892 (32.5%)	219 (1.8%)	592 (4.9%)	1,406 (11.7%)	798 (6.7%)	520 (4.3%)	2,350 (19.6%)	1,324 (11.0%)	276 (2.3%)	221 (1.8%)	73 (0.6%)	67 (0.6%)	29 (0.2%)	54 (0.5%)	64 (0.9%)	399箱
	⑦雑誌（一般雑誌）	897件			24													191箱
	⑧雑誌（専門雑誌）	213件			19													873箱
書籍類	⑨技報・会報・論文	717件	57	11	43	48	8	26	135	87	16	14	6		2	231	33	24箱
	⑩社史・公団史・工事誌	335件	71	10	15	87	6	13	35	19	7	1	4			67		26箱
	⑪白書・便覧・辞書	674件														674		29箱
	書籍類合計	14,825件 (100.0%)	4,020 (27.1%)	240 (1.6%)	693 (4.7%)	1,541 (10.4%)	812 (5.5%)	559 (3.8%)	2,520 (17.0%)	1,430 (9.7%)	299 (2.0%)	236 (1.6%)	83 (0.6%)	67 (0.5%)	31 (0.2%)	54 (0.4%)	1,036 (7.0%)	669箱
書籍類	⑫スクラップ類	231件														231		13箱
	⑬地図・パンフレット	7件																7箱
	⑭活動履歴	3,760件		19	114	523	34	116	317	388	26	42	6		2	218	146	490箱
	⑮新聞	221件														221		16箱
書籍類	⑯その他（写真）	65件																8箱
	書籍外合計	4,430件 (100.0%)		19 (0.4%)	114 (2.6%)	523 (11.8%)	34 (0.8%)	116 (2.6%)	317 (7.2%)	388 (8.8%)	26 (0.6%)	42 (1.0%)	6 (0.1%)		2 (0.1%)	218 (4.9%)	607 (13.7%)	546箱
	総合合計	19,255件 (100.0%)	4,020 (20.9%)	259 (1.4%)	807 (4.2%)	2,064 (10.7%)	846 (4.4%)	615 (3.5%)	2,837 (14.7%)	1,818 (9.4%)	325 (1.7%)	278 (1.4%)	89 (0.5%)	67 (0.4%)	33 (0.2%)	212 (1.4%)	1,643 (8.5%)	1,215箱

表一 2 八十島文庫・史料の概要と整理状況

資料区分	史料		保管ケース		整理状況と今後の作業
	数	割合 (%)	数	割合 (%)	
活動履歴	3,760	19.5	490	39.3	・八十島史料の保管ケースで最多数がここにまとめられているが、書籍、報告書などのような工種分類が不可能な史料。 ・八十島義之助文庫の中で最重要。公開、非公開の資料を厳選する。 ・大分類としての史料リストは一部作成済。ただし発行年月、発行者名等の整理なし。 ・史料は大分類のまま保管ケースにはばらばらに混在している。 ・今後、保管ケースごとの史料リストを作成し、検索・利用が容易なように整理を行う。 ・保管ケース内の史料照合・確認は未。
書籍類	書籍 (一般教養)	2,729	14.2	80	6.4
	書籍 (専門書)	1,631	8.5	68	5.5
	書籍 (文学)	166	0.9	6	0.5
	報告書	7,463	38.7	245	19.7
	雑誌 (一般雑誌)	897			
	雑誌 (専門雑誌)	213	5.7	191	15.3
	技報・会報・論文	717	3.7	24	1.9
	社史・公団史・工事史	335	1.7	26	2.1
	白書・便覧・辞書	674	3.5	29	2.3
	スクラップ類	231	1.2	13	1
書籍外	カタログ・パンフレット類	7	0	7	0.5
	地図	146	0.7	12	1
	新聞	221	1.1	16	1.3
	その他	65	0.3	8	0.6
未整理分	α	—	30	2.4	・報告書 (第一次整理分) に含まれていない史料。 ・各種名簿類、個人の表彰状・卒業証書・叙勲関係、名詞類、書籍その他。 ・史料リスト作成中。
総数	19,255 + α		1,245	100	

(5) 事務的組織と責任者

検討中。

5. あとがき

先に国土交通省は「全総」の廃止を発表した。全総＝全国総合開発計画は、1950年に制定された国土総合開発法に基づいて国が作成する超長期の国土・社会資本整備計画で、1962年（池田内閣）に所得倍增計画を掲げた全総が、1969年（佐藤内閣）に新全総、1977年（福田内閣）に三全総、1987年（中曽根内閣）に四全総、そして最後となった五全総は1998年（橋本内閣）の発表であった。全総はその基本に国土の均衡ある発展を掲げ、都市と地方の格差是正におき、わが国の豊かさと国土の均衡ある発展に寄与し、幾多の恩恵を国民が等しく享受するものとなったが、一方で、環境への負荷や利権癒着の構造を生み、国家財政の逼迫を招来する等、幾多の課題が顕在化し、時代の大きな変化の中でその役割を終えた。

また、小泉内閣による三位一体の地方自治改革や、少子高齢化＝人口減少社会の到来を目前にして、公共事業の有り様は大きく変化せざるを得ない。

このような時にあって、先生が残された膨大な史料から、戦後の疲弊しきった国土から高度成長時代を経て失われた10年(90年から03年までのキャピタルロス 1,210兆円の損失)と言われる今日までの光と影の歴史を検証し、世界でも稀な厳しい自然環境の中で、今後とも人々が安全・安心そして美しく暮らせる快適な舞台造りのために何が大切なのかを研究し、その成果がわが国の将来のみならず発展途上にある国々とともに享受できたとしたら、先生のご意思に添えることになるものと考えている。